

一

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文(章)の体をなしていないと判 断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 明らかな誤字、語句・接続語・助詞等の誤用はマイナス1点。同じ誤字の繰り返しは一度だけ減点。
- ③ 正答の要素を含んでいても説明の方向性が全くズレていると判断される答案は0点としてよい。

※ 問一・問二・問三(1)・問六は解答例のみ正解とする。

問三 (2)

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点 1 2 点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A C

下位部門も戦略立案プロセスに参加させて、組織全体の戦略に対する当事者意識を共有させ、上位戦略と整合

D

合的な下位戦略の形成や個別の意思決定が行える条件を設定すること。

■字数・八〇字 三十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「下位部門も戦略立案プロセスに参画させて」…3点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「組織全体の戦略に対する当事者意識を共有させ」…3点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「組織全体の」に相当する説明を欠く場合は2点。
- ・ 「当事者意識」を欠くなど、説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「上位戦略と整合的な下位戦略の形成」…3点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

- ・ 「上位戦略と」を欠く場合は2点。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素D 「(上位戦略と整合的な) 個別の意思決定が行える条件を設定する」…3点
 - ・ 「条件を設定する」はなくても可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 要素Cで「上位戦略と」を欠いている場合は、ここも2点。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素E 「…(という) こと」という文末表現が原則。不適切であると判断される場合はマイナス1点。

問四

- 形式上の不備
 - ・ 文末表現は要素F参照

基準 配点 6点
1点

- 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 競争的な関係にある 他者の方法や手段が変更された状況であり、それに対処するには、当初の
B 目的の維持、
D①
C

D②
E
実現のために、それにふさわしいかたちで 下位戦略、そして手段やリソース配分を見直してい
かなければ
ならない。

- 字数…百字 四十九字以下のもは全体不可(0点)

- 要素A 「競争的な関係にある」…3点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素B 「他者の方法や手段が変更された状況」…4点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「方法」「手段」のいずれか一つを欠く場合は3点。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は2点。

- 要素C 「当初の目的の維持、実現のために」…3点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「維持」「実現」のいずれか一つを欠く場合は2点。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素D①「それに対処するには」②「それにふさわしいかたちで」…2点
- ・①・②のいずれかとほぼ同内容の説明が答案中であると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素E「下位戦略、そして手段やリソース配分を見直していかなければならない」…4点
- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「下位戦略」「手段（「方法」も可）」「リソース配分」のいずれか一つを欠く場合は3点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は2点。

- 要素F「状況」および「対処法」を説明した答案の文末表現として妥当であると判断できれば広く許容 して可。不適切であると判断される場合はマイナス1点。

問五

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素G参照

基準 配点 16点

- 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 計画の立案段階から 下位部門の担当者を組み込み 当事者意識を持たせるとい
 のデザインに B 画の立案段階から 下位部門の担当者を組み込み 当事者意識を持たせるとい
 D 画の立案段階から 下位部門の担当者を組み込み 当事者意識を持たせるとい
 E 画の立案段階から 下位部門の担当者を組み込み 当事者意識を持たせるとい
 F 画の立案段階から 下位部門の担当者を組み込み 当事者意識を持たせるとい
 より、暗黙知としての 上位戦略の内容が組織全体で日常的に共有でき、状況の変化への迅速な
 対応も期待

できるから。

- 字数…百字 四十九字以下のものは全体不可（0点）

- 要素A「計画の立案段階から」…2点
- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素B「下位部門の担当者を組み込み」…3点
- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素C「当事者意識を持たせるとい戦略立案プロセスのデザインにより」…3点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「(戦略立案) プロセスのデザイン」、特に「デザイン」に相当する説明を欠く場合は2点。

- ・ 「当事者意識」を欠くなど説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D 「暗黙知としての」…2点

- ・ 「上位戦略」が「暗黙知」であることが答案のどこから読み取れれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 「上位戦略の内容が組織全体で日常的に共有でき」…3点

- ・ 「日常的に」はなくても可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「組織全体で」に相当する説明を欠く場合は2点。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F 「状況の変化への迅速な対応も期待できる」…3点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「迅速に」に相当する説明を欠く場合は2点。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G 「…から…ので…ため」といった文末表現が原則。但し、「プロセスのデザイン」と、それが 「大きな意味を持つ」理由を説明した答案の文末表現として妥当であると判断できれば可。不適切 であると判断される場合はマイナス1点。

二(雨月物語)

問一 ア

配点：3点

- 品詞分解の問題
- 採点方法：各要素単独採点
- 字数制限無し
- 形式上の不備 ・ 品詞名(動詞は活用の種類も・助動詞は意味も) + 「基本形」 + 活用形。
- 模範解答 * 各要素同意表現可。

a

b

c

し：サ変動詞「す」連用形／給ふ：ハ行四段動詞「給ふ」終止形／らん：現在推量「らむ」の連体形

- 要素 a し：サ変動詞「す」連用形：完答1点

・ 他) サ行変格活用 も可

- 要素 b 給ふ：ハ行四段動詞(尊敬)「給ふ」終止形：完答1点

・ 他) ハ行四段活用・補助動詞 も可

・ ハ行・尊敬はなくても可。ただし、ハ行以外・尊敬以外の記述があった場合は×

- 要素 c らん：現在推量「らむ」の連体形：完答1点

・ 他) 「らん・らむ」どちらでも可。原因推量は×

・ 撥音便などの記載があっても不問。採点対象としない。

* 各要素、引用(→)「し」「給ふ」「らん」の部分)はなくても可

* 「／」は「+」などでも可

問一 イ

配点：3点

- 品詞分解の問題
- 採点方法：各要素単独採点
- 字数制限無し
- 形式上の不備 ・ 品詞名(動詞は活用の種類も・助動詞は意味も) + 「基本形」 + 活用形。
- 模範解答 * 各要素同意表現可。

a

b

c

帰り：ラ行四段動詞「帰る」連用形／な：強意の助動詞「ぬ」未然形／ん：意志の助動詞「む」終止形

- 要素 a 帰り：ラ行四段動詞「帰る」連用形：完答1点

・ 「ラ行」はなくても可(ただしラ行以外の解答があれば減点)。ラ行四段活用動詞も可。

■要素b な…強意の助動詞「ぬ」未然形…**完答1点**
 ・「強意」は「確述」でも可とする。「ぬ」は完了の助動詞となっても「強意」の説明があれば可。

■要素c ん…意志の助動詞「む」終止形…**完答1点**

- ・「む」は推量の助動詞となっても「意志」の意について説明があれば可。
- ・他) 「ん・む」どちらでも可。
- ・撥音便などの記載があっても不問。採点対象としない。

*各要素、引用(→「帰り…」「な…」「ん…」の部分)はなくても可
 *「／」は「+」などでも可

問一ウ

配点…3点

■品詞分解の問題

■採点方法…各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・品詞名(動詞は活用の種類も・助動詞は意味も) + 「基本形」 + 活用形。

■模範解答 *各要素同意表現可。

a

b

c

入ら…ラ行四段動詞「入る」未然形／せ…尊敬の助動詞「す」連用形／給へ…ハ行四段動詞「給ふ」命令形

■要素a 入ら…ラ行四段動詞「入る」未然形…**完答1点**

- ・他) ・「ラ行」はなくても可(ただしラ行以外の解答があれば減点)。
- ・ラ行四段活用活用動詞も可。

■要素b せ…尊敬の助動詞「す」連用形…**完答1点**

- ・尊敬以外は×。

■要素c 給へ…ハ行四段動詞「給ふ」(尊敬)命令形…**完答1点**

- ・他) ハ行四段活用動詞・補助動詞 も可
- ・尊敬の有無は不問。ただし、尊敬以外の記述があった場合は×

*各要素、引用(→「入ら…」「せ…」「給へ…」の部分)はなくても可
 *「／」は「+」などでも可

問二

配点…6点

■現代語訳の問題

■採点方法…各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末表現・句読点は不問

■模範解答 *各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

この熊野のあたりに	このような美しい人が	住んでいることを	今までうわさに聞かないこ
a	b	c	d
とは	ないだろう	e	

■要素 a この熊野のあたりに…1点

・「この辺り」で可。補うとしたら「熊野・紀の国」などを補う。まちがっていない限り不問。

■要素 b このような美しい人が…2点

・「こう・このように・これほど・これほど・こんなに」+「良い・好ましい・美しい」人・女性+主格「が」

右三個のうち三個できて②点、二個できて①点、〇〜一個は①点

■要素 c 住んでいることを…1点

・「らむ」は婉曲「ような・とかいう」でも、ただ単に「住んでいること」でも可。①点

■要素 d 今までうわさに聞かないことは…1点

・「うわさに聞かない・（自然と）耳に入らない・評判にならない」など

■要素 e ないだろう…1点

・打消推量「あるまい・ないだろう」

■その他…文意が理解できていると判断されれば、余計な言葉があっても不問

問二 II

配点…6点

■現代語訳の問題

■採点方法…各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末表現・句読点は不問

■模範解答 *各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

a b c d e

あなたがこの海郎の家で雨宿りなさっているとも知らずに、わきまえもなく立ち寄りました。

■要素 a あなたが…1点

- ・ 主語を補う。

■要素 b この海郎の家で雨宿りなさっているとも…2点

- ・ 「海郎の家で」の有無は不問。間違った場所があれば①点減点
- ・ 「雨宿りする・滞在する・いる」①点
- ・ 尊敬「なさる・おくなる」①点 または二点合わせて「いらっしゃる」②点

■要素 c 知らずに…1点

- ・ 打消 「知らずに・知らないで」など

■要素 d わきまえもなく…1点

- ・ 「道理に合わない・分別がない・むやみに・わきまえもなく」など

■要素 e 立ち寄りました…1点

- ・ 「立ち寄る」+丁寧語「です・ます」

■その他…文意が理解できていると判断されれば、余計な言葉があっても不問

問二 三 配点…6点

■現代語訳の問題

■採点方法…各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末表現・句読点は不問

■模範解答 *各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

a b c d

あなたに心のこもったおもてなしもいたすことができません。

■要素 a あなたに…1点

- ・ 豊雄にであることがわかれば可。

■要素 b 心のこもった…1点

- ・「心のこもった・充分な・本格的な」などもてなす心に主眼があるもの○
- ・「豪華・立派」など見た目の派手さに主眼があるのは×。

■要素c おもてなしも：1点

- ・「饗応・おもてなし・ごちそう・食事・ふるまい・接待」 など

■要素d いたすことができません：3点

- ・謙譲語「いたす・く申し上げる・おくする・して差し上げる」①点+不可能②点

■その他：文意が理解できていると判断されれば、余計な言葉があっても不問

問三 IV 配点：6点

■和歌の現代語訳の問題

■採点方法：各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末表現・句読点の不問

■模範解答 *各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

a b c d e

決して私の言葉を浮ついた言葉とお聞きにならないでください。

■要素a 決して：1点

- ・「絶対に・決して」など、禁止と呼応するもの

■要素b 私の言葉を：1点

- ・「私」が「これから言うこと・言葉」など。

■要素c 浮ついた言葉と：2点

- ・「浮ついた・誠実でない・あてにならない・頼りない・いいかげんだ」など

■要素d お聞きになら：1点

- ・「聞く」の尊敬語。「お聞きになる・聞きなさる」など

■要素e ないでください：1点

- ・禁止。または哀願に近いものでも可。「するな・しないでくれ・しないでほしい」など

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問三 ①

配点：6点

■ 心情説明の問題

■ 採点方法：各要素単独採点

■ 字数制限無し

■ 形式上の不備 ・ 文末は「〜心情・気持ち・思っている」など。 ・ 句読点は不問。

■ 模範解答 * 各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

a

b

c

熊野詣でのついでだとしても、美しい都人らしい女が、下男らしい従者も連れていないのは

d

e

体裁が悪いことだと思う心情。

■ 要素 a 熊野詣でのついでだとしても：1点

・ 「さりとして」の内容 「熊野詣のついで・三山詣のついで・海を見に来た」

■ 要素 b 美しい都人らしい女が：1点

・ 「美しい女・都人らしい女・年若い女・身分のありそうな女」など。

■ 要素 c 下男らしい従者も連れていないのは：1点

・ 「男（の従者）」を「連れていない」ことがわかれば可。

■ 要素 d 体裁が悪いことだと思う：2点

・ 「不似合いだ・体裁が悪い・ふさわしくない・そぐわない・つりあわない」など

■ 要素 e 心情：1点

・ 「〜心情・気持ち・思っている」など

■ その他：余計な言葉があっても不問

問三 ②

配点：6点

■ 心情説明の問題

■ 採点方法：各要素単独採点

■ 字数制限無し

■ 形式上の不備 ・ 文末は「〜心情・気持ち・思っている」など。 ・ 句読点は不問。

■ 模範解答 * 各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

a

b

女の家や門の造りと蔀や簾の様子が、夢の中で訪れた女の家と全く違うことを

c

d

不思議だと思う心情。

■要素 a 女の家や門の造りと蔀や簾の様子が…2点

- ・現実の女の家(と同じ)であることがわかれば①点
- ・具体的に門の造り・簾と蔀の様子があれば①点

■要素 b 夢の中で訪れた女の家と全く違うことを…2点

- ・夢(①点) (で訪れた女の家)と同じ(①点) であることがわかれば可。

■要素 c 不思議だと思う…1点

- ・「不思議だ・奇妙だ・不審だ・いぶかしい」など

■要素 d 心情…1点

- ・「〜心情・気持ち・思っている」など

■その他…余計な言葉があっても不問

問三 ③ 配点…6点

■心情説明の問題

■採点方法…各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末は「〜心情・気持ち・思っている」など。 ・句読点は不問。

■模範解答 *各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

a b c d

女からの思いがけない求婚に驚き、かねてからの願いがかなってうれしく思う心情。

■要素 a 女からの思いがけない求婚に…2点

- ・「女」の「求婚」各①点

■要素 b 驚き…1点

■要素 c かねてからの願いがかなってうれしく思う…2点

- ・「願いどおり・望み通り」または「自分も好意を持っていた」①点
- ・うれしい①点

■要素 d 心情…1点

- ・「〜心情・気持ち・思っている」など

■その他…余計な言葉があっても不問

問四 配点…9点

- 和歌をふまえた内容説明の問題
- 採点方法…各要素単独採点
- 字数制限無し
- 形式上の不備 ・文末は「〜こと」など。 ・句読点は不問。
- 模範解答 *各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

a
このあたりには雨宿りできる家もないというのに、不都合にも降ってくる雨だなあという万葉集
b
c

d
このあたりには雨宿りできる家もないというのに、不都合にも降ってくる雨だなあという万葉集
e
このあたりには雨宿りできる家もないというのに、不都合にも降ってくる雨だなあという万葉集

■要素 a このあたりには雨宿りできる家もないというのに…2点

- ・このあたり（三輪が崎佐野のわたり）に ①点
- ・家がない・雨宿りできる場所がない ①点

■要素 b 不都合にも降ってくる雨だなあという…2点

- ・不都合にも・困ったことに・つらいことにも・不快なことに など精神的苦 ①点
- ・雨が降る ①点

■要素 c 万葉集の歌は…1点

- ・（万葉集の）歌が ①点

■要素 d 今日の雨宿りに苦心する私たちのような…3点

- ・今日の ①点
- ・わたしたち（豊雄と女）と ①点
- ・「（万葉集の状況・心情・風情が）同じ・似ている」があれば可 ①点

■要素 e こと…1点

■その他…現代語訳ではないので、余計な言葉があっても内容があっていれば可



問一 a まぎに

(2点)

b けだし

(2点)

c ちし

(2点)

※ カタカナ書きは X 0点

※ 送り仮名を含めていらないもの C a「まさ」・b「けだし」・c「モ」が正
X 0点

問二 曾子のこの上なる孝心のゆえに、

a 3

親の体に何かあはれが、それを感ずることかいてきたため、

b 2

母が二の腕をつわった痛みを感じてくれたから。 (2点)

c 3

a, 「至孝に似て」の要素 ----- 3点

※ b・cの大もとになった理由にあたる。

※ 「曾子の～」は省けて可。

※ 「至」の意が平が弱いためは △-1点

○ 「曾子のこの上なる孝心のゆえに」

「曾子はこの上なる親孝行だったため」

「曾子は至って孝行であったため」

「曾子は極めて孝行があった」

○ 「曾子は親孝行ぞい」

「曾子はとて孝行者ぞい」 } 各2点-1点

※ 「至孝ぞい」のままは △-2点

b, 「父母の気と同じくするを以て、体には病有りしが精神を感ずる」の要素

----- 2点

※ 「親の体に何かあはれがそれを感ずることかいてきたため」

「母と気が通じて、体の要素を感じてくれたため」

「親と気が通じて、2点」

※ 「母と気持が通じて、2点」

「母と気持が通じているため」 } 各2点、△-1点

問四 骨が死せば、骨子も亦軛ち死するか。 (4点)

※ 必ず「て」が「が」にしているものは、定着が「が」の1点おえ子、
「軛(すなはち)」に留察。
※ 「亦」を「また」など、部分的には「て」が「が」にしている可。

※ 直前の文と対句になっているので、「骨母」は「骨母」。

「骨の母」としているものは△-1点。

※ 「骨まが」と対句なので、「死」は「死せば」である。「死すれば」。

「死す」はサ変。「死なば」はナ変にしているものは△-2点。

※ 「亦」は「も」また。「亦た」でも可とする。

※ 「軛」は「すなはち」。前の文と対句にあるから「軛ち」。

※ 「死す」は「死するが」。「死すや」でも可とする。

「死ぬるか」「死ぬや」はナ変にしているものは△-2点。

問五 精気は、この腕をつかつた痛みのように小指をこきつては人を動かす

a z b

こきがつきこも、精気や死のような小指をこきつては人を動かす

c y

つぎはないか、ということ。

d

(8点)

a. 全体の主語(主体)の明示……2点

※ 「精気は」の「まま」

「心や気は」(注カリ)

「骨子と母の間の精気は」

} 各2点

b. 「能く小をば」相動かすの内容……3点

※ 「この腕をつかつた痛みは」の要素

「小指をこきつては」人を動かすことか「こきつて」の要素

} 各2点

この要素のうち、片方が「は」の場合、△1点とする。

※ 「この腕の痛みは」通じて「は」に

「腕をつかつた痛みは」(注カリ)

「この腕をつかつた痛みは」(注カリ)

} 各△-2点

「腕の痛みは」母と通じて「は」に

* 「小さは通い(合)るの2」
 「小さは通い(合)るの2」 } 各1点
 「おれは通い(合)るの2」 } 各1点
 ※ bはCの文脈を逆接=ながらしてほしか。Cの文末が「おれは通い(合)るの2」なので、「おれは通い(合)るの2」のようでも可とする。

c, 「大は感せしむる能はざるか」の内容... 了点
 * 「病氣も死のようか」の要案

「大なること人を動かすことだて」まな「おか」の要案 } 各-2点
 このも、二つあり、おかの場合、た Δ1点とする。

※ 「病氣も死のようか」は、「病氣」と「死」、いすか一方の場合、は Δ1点とする。

※ 「病氣も死は通い(合)るの2」

「病氣も死は通い(合)るの2」 } 各1点

「病氣も死は通い(合)るの2」

※ 「大なること人を動かすことだて」まな「おか」

「大なることを動かすことだて」まな「おか」

「大なること人を動かすことだて」まな「おか」 } 各1点

「大なること人を動かすことだて」まな「おか」

「大なること人を動かすことだて」まな「おか」

※ 文末は疑問に、

「動かすことだて」まな「おか」のようにならぬも、おか Δ-2点

※ 「〜と〜」の有無は不明とする。

問六 曾子の母は家にあり、曾子は野山にいて、

a 母が「おれは」をなせも聞かしてほしか。

c

母が「おれは」の腕をうかがったとして、

d

どうして子も動かすことか、(8点)

e

a. 「母は家に在り」の訳………1点

※ 「母子は母は家に在り」 } 2点
 「母子の母は家に在り」

※ 「母」のまま } 2点可とする。
 「家」に在り、

b. 「母子は野に在り」の訳………1点

※ 「母子は野山に在り」 } 2点
 「母子は野原に在り」

※ 「野に在り(あつて)」で可とする。

c. 「呼吸の音を聞かざれば」の訳………2点

※ 「母が呼吸の音を聞かざれば」 } 2点
 「母が呼吸の音を聞かざれば」

※ 「母が呼吸の音を聞かざれば」の訳に、母が實際呼吸人だ }
 ようにして、子は母の呼吸を聞かざれば、文には母が呼吸人だ }
 ※ 「〜の呼吸の音を聞かざれば」の訳に、文には母が呼吸人だ }
 「〜聞かざれば」 } 2点
 「〜聞かざれば」 } 2点

「〜聞かざれば」 } 2点
 「〜聞かざれば」 } 2点

d. 「母は腕を揺らす」の訳………2点

※ 「母は腕を揺らす」 } 2点
 「母は腕を揺らす」

「母は腕を揺らす」 } 2点
 「母は腕を揺らす」 } 2点

e. 「安んずる能く子を動かさず」の訳………2点

※ 「安んずる能く子を動かさず」 } 2点
 「安んずる能く子を動かさず」

「安んずる能く子を動かさず」 } 2点
 「安んずる能く子を動かさず」 } 2点
 「安んずる能く子を動かさず」 } 2点

問七 親子の母が「この腕をうけと 親子のこの腕が痛んだ」という話は、

a 世間が孝を称之、

b 親子の孝が世に披ふものが無いという評判によって生じた虚徳であり、

c 至孝で、おれが「気が通じて相手を動かせるのなら、

d 母が「病氣」になれど「子も病氣」になり、

e 母が「死ねば」子は死ぬことになり、

f そのおろすことは無いということか、いとも明かして「あり。」 (20点)

※ a は「伝書」に伝えて、b は「おろす」こと出「ついで」に相当。

※ b ~ h は 筆者の論評に相当。ホイトは c、d。

※ 各ホイトに相当するものが「おれが」、「直は」聞かれない。

※ 原則的「は」ゆるめの採点法。

a、第1段落で「伝書」が「伝えている語の内容……」と、

「具体的な」書「は」が「い」了「る」事「業」が「あ」る「か」! ホイトは、遠くおろして
「い」る「か」に、「親子の母が」この腕をうけと 親子のこの腕が「痛んだ」と
いう「点」が「あ」る。

※ 「母が」親子を「受けと」せ「る」ため「に」とか、「「来客を」知「う」せた「と」とか、

「「痛んだ」とか」母「に」何「か」あ「た」か「と」思「う」て「す」に「帰」つた「と」とか「は、あ、う、て
「は」い、か、」加「点」が「あ」る「い」。

※ 「父母と気が通じ」か「す」で「い」て、「体」に「病氣」有「れ」ば、「半筋」神「転」じ「感」が「い」に「つ」いて
「は、目」に「通」じ「る」の「と」、その「位置」に「な」る「て」よ「い」、その「要」素「が」その「位置」に

「な」る「場」合、「その」位置「に」あ「る」て、「全」体「の」説「明」に「不」自「然」か「ら」な「れ」ば「
その」点「分」を「こ」こ「で」加「点」す「る」。

b、「世人」孝を「公」道「ふ」れ「ば」 } の「要」素「……」と「あ」る

「世人」が「孝徳」の「至」り「を」説「く」こ「と」

c, 「曾子の孝天下に双ふことの無き[開]」の要素-----3点
 第1段落の「蓋し至孝にして」
 * dの「嘘」が「匹匹」=根拠。

d, 第2段落冒頭の「此れ虚言」の要素-----3点
 * aの直接=「〜といふ語(オ)虚で“虚”^{虚言}(子)」のオにちか^{ちか}ていて
 せよ。

* 「嘘」は「虚言」「開遣い」で可。
 * 「〜(ハ)以」筆者は否定している。「疑問を扱いかけている」のオラ^{オラ}でよ。

e, 「孝弟の至りは精氣相動かすと云ふ」
 「至孝にして父母と氣同むるを以て〜軌と致す」の要素-----2点
 * 「〜(ヒ)云ふ」感ずるのオラ^{オラ}。f, gのオは“感”が、という文脈がよい。

f, 「曾母病むる曾子も亦軌と致す」の要素-----2点
 g, 「曾母死せば曾子も亦軌と致す」の要素-----2点

h, f・gのオラにはオラ^{オラ}から、eが「虚」であるのオラ^{オラ}かである
 という結論-----2点

* e〜hは、a〜dの論評の補完。